

「全少」を日本一研究する指導者による提案

# ZENSHOに

# 挑戦しよう！



養正館館長・渡辺貴斗 第17回

男の子と女の子（その1）

## 男の子はワケわからない

### ◆男の子と女の子、遊び方も全く違う

指導者の先生方は常日頃、経験されていることだと思いますが、休憩中に走り回り危ない遊びや、プロレスごっこなどをするのはたいてい男の子ですよ。私は、稽古に集中してもらうためにも、休憩の時は思いっきり遊ばせてあげたいと考えていますが、男の子は、衝動的で攻撃的な遊びを好みますので、いつも怪我をするのではないかとヒヤヒヤものです。

1人の男の子に5人くらいで上から覆いかぶさったり（窒息します）、戦闘ごっこで戦ったり（教えた中段突きや回し蹴りができるはずなのに、なぜか下手クソな猫パンチや、すくい蹴りを使う。1人で見えない敵と戦うこともよくある）、奇声をあげながら意味もなく縦横無尽に走り回って他の子と衝突してタンコブを作ったりと、休憩時間もオチオチ休んでいられません。男の子は私の目が届かない（と思っている）、私から離れたところで暴れています（しっかり私の視界には入っていますが）。一方、女の子は私の近くで、2～3人のグループで座っておしゃべりをしたり、平和的な遊びをしています。男の子と女の子は明らかに違う生き物だな、と日々感じています。

### ◆男の子はワケわからない

妻は息子のことを全く理解できないと毎日嘆いています（私は同じ男として、半分くらいは理解できるのですが）。

たとえば、妻が「コップに水を汲んで来て」と頼むと、息子は「うん！」とすぐに良い返事をするのですが、コップを取りに行くまでに様々な誘惑に負け、ころがっているマンガを開いて見たり、新しく

買ったコショーに感動したり（最近コショーにハマっている）、やっとなコップに辿り着いたと思ったら、テレビを観ながらコップの水を運び、つまずいて半分以上こぼしてしまうなど、こんなことは日常茶飯事です。そのあと妻から雷が落ちますが、その説教も聞いているのかいないのか（テレビを観ながら聞いている）。さらに特大の雷が落ちるといって、いつも同じパターンを繰り返しています。

母から聞いた私の兄の小1の頃の話ですが、ある日、母が帰宅したところ、兄がコタツの天板を傾けて一人で遊んでいたそうです。よく見ると4～5匹の大きな毛虫でレースをしていて、卒倒するほど驚いた母に、ポケットからさらに大量の毛虫やダンゴムシを驚づかみで嬉しそうに見せたとのこと。その頃の兄は虫全般に興味があり、母や学校の先生をよく困らせていたそうです。しかし、兄は皆を困らせるつもりなどなく、「カワイイでしょ？」と自分の大好きな毛虫をみんなに見せてあげたかったのだと思います。

男の子は、特定のものを収集したり、何かを調べ尽くして暗記したり、ひとつのことに固執します。私が小学生のときの友人に、誰も頼んでいないのに、東海道線の全駅名を暗唱できたA君や、路上で見かける車の車種・年式・仕様など全て言い当てたB君などがいました。よく言えば、ひとつのものに集中して究める能力が高く（オタク的）、悪く言うと他のものには一切興味を示しません。これも男の子の特徴です。

### ◆オタクの習性を利用し、力を引き出す

私の息子が3歳のとき、お風呂の壁に水で貼る「世界の国旗」を貼ると、息子は1週間ほどで全部覚え

てしまいました。私はおもしろがって他の種類も貼りましたが、「国旗」以外には興味を示さなくなっていました（まさにオタク）。そのあと、興味のある「国旗」と関連のある「世界地図」を貼って、「国名と首都」を国旗とリンクさせてみました。すると思惑は当たり、大好きな国旗と一緒に「国名と首都」もお風呂ですぐに覚えてしまいました。虫に興味を示す男の子がいたら、ママさんは「やめてよ、気持ち悪い」と嘆くのではなく、虫の漢字を覚えるように漢字に興味を軌道修正させたり、虫から動物に興味を移行させれば今度は動物を覚えたり、さらに動物の生態まで調べ尽くし生物学にまで発展していくかもしれません。男の子の極端な「こだわりパワー」は、うまく利用すれば、とてつもない力となります。

### ◆男の子脳と女の子脳

男の子は胎児のときに、羊水内で高濃度の男性ホルモン（テストステロン）を浴びることで、男の子脳になることが分かっています（ラットのみの研究ですが）。一般的に男の子脳は、戦闘ごっこなどの「攻撃的」なものが好きで、一番になりたがる「競争心」を併せ持ちます。女の子脳は、仲間意識を大切に、協調性があり、相手の表情から空気を読み、争いを避けるようにできています。これらは生殖活動のためであると考えられています。

男の子は、「オレ、これできるよ」と誰かが言うと、「オレもできる」「オレも！」と誰もが一番に成りたがります。女の子は、「私はピンクにする」というと、「私もピンク」「私も！」となり、他の色は選びません。他の女の子と協調し、共感しようとしているのです。

女の子脳で育ち、女の子脳を持つママさんには、男の子の行動は理解できなくて当然です。「命に関わらなければ、ある程度、自由にやらせてあげよう」くらいに達観してみてもいいと思います。とはいえ、このモンスターと日々格闘しているママさんたちのために、男の子とどうやって付き合っていけばいいのか、次号から具体例をあげ述べていきたいと思います。へそを曲げると扱いづらい女の子についても考えていきます。

### PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。先代の病気をきっかけに養正館を継ぐ。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年全少5名入賞、2014年・2015年と2年連続で7名入賞、2016年5名入賞させ全国最多入賞道場となる。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



日本空手道鴻志会空手道場養正館／静岡県沼津市本田町 11-12

## Column 「武道錬成大会」

7月30日、日本武道館（東京都）で、全日本少年少女武道錬成大会が、開催されました。養正館では全少のために錬成大会に毎年出場しています。練習嫌いな全少選手も、仲間（チーム）のためにはものすごく頑張れます。小学生の空手競技は形も組手も個人戦のみですが、錬成大会は唯一、小学生団体戦があるチームワークを学べる大会です。

今年の養正館の結果ですが、7チームが決勝トーナメントに進出し、優良賞（2位）1チーム、敢闘賞（3位）2チーム、努力賞（5位）4チームでした。3年連続で準優勝止まりとなり、またもあと一步で優勝を逃してしまいました。形・組手どちらも勝つのは本当に難しいです。

### 【養正館 今年の「武道錬成大会」結果】

#### ●小学1・2年生の部 優良賞（2位）



芹澤連二・勝又蒼唯・永井皇羽・松本颯哉（写真順）

#### ●小学3・4年生の部 敢闘賞（3位）



芹澤理一・中原健太・熊谷駿・山本善太（写真順）

#### ●中学生の部 敢闘賞（3位）



勝又颯太・江藤暖弥・大川杏哲・川人つぐみ（写真順）

#### 以下努力賞（5位）

- 小学1・2年生の部 / 榊原和也・公門里孔・大河稜旺
- 小学1・2年生の部 / 下山陽音・伊藤泰暉・中島暖太
- 小学3・4年生の部 / 望月結以・伊藤耀聖・大河美夕
- 小学5・6年生の部 / 倉岡穂乃花・伊藤柊・江藤風沙・星屋菜那花

